

英語学概論 (第6講)

英語の語彙

第6講で学ぶこと

- ▶ 語彙の形態を知る。
- ▶ 語源の活用によって単語数を増やす方法を知る。



形態論(morphology)

- ▶ 英語の形態、特に単語の形態を研究する分野は形態論という。
- ▶ 形態の一番の源を形態素という。
- ▶ 自由形態素：policeやcarのようにそれだけで単語になるもの。
- ▶ 拘束形態素：-ed, -lyのようにそれだけでは単語になることができずに、他の形態素について使われるもの。屈折接辞、派生接辞などである。
- ▶ 屈折接辞：拘束形態素の大部分が接辞と呼ばれるもので、-edのように語形変化という文法的な機能をこなうもの。
- ▶ 派生接辞：-nessのようにそれがつくことで意味が変わり別語になるもの。

複合語

- ▶ 複合語(compound) →自由形態素（単語） どうしの組み合わせで新しい語をつくること。
 - ▶ 複合名詞 blackboard, housekeeping
 - ▶ 複合形容詞 hardworking, waterproof, homemade
 - ▶ 複合動詞 overflow, undertake
-
- ▶ なお、blackboardは2つの要素から成り立つ複合語である。中心要素はboard、主要部は右側にある。

派生(derivation)

- ▶ 拘束形態素の接辞を用いて新しい語を作るプロセスが派生である。前に接続するか、後ろに接続するかで次の二種類に分けられる。
 - ▶ 接頭辞
 - ▶ 接尾辞
- ▶ 言語の中には、接中辞がある。



接辞 affix

▶ 接頭辞 prefix

接頭辞	意味	単語例
a-	否定	•anarchy : 「無政府状態」 •atheist : 「無神論者」
ab-	離れた	•abrupt : 「突然の、ぶっきらぼうな」 •absent : 「欠席している」
acro-	高い	•acrobat : 「アクロバット」 •acrophobia : 「高所恐怖症」

接尾辞

接尾辞	【品詞】 意味	単語例
-able, -ible	【形容詞】 ~できる、 ~しうる	•accessible:「到達できる」 •imaginable:「想像できる」
-al	【名詞】 行動	•criminal:「犯罪者」 •festival:「お祭り」 •trial:「試験、裁判」
-al, -ial, -ical	【形容詞】 性質	•herbal:「薬草の」 •territorial:「地域的な」 •typical:「典型的な」
-an, -ian	【名詞】 人々	•American:「アメリカ人」 •musician:「音楽家」

語源で語彙を増やす方法

- ▶ 多くの単語は過去の単純な語から発展している。
- ▶ それらは多くの語の源であるからそこを押さえると覚えやすくなる。



語源を利用した記憶法

生徒達が英語の勉強が嫌いになる理由

- ① 単語が覚えられない
- ② 文法が難しい
- ③ 文章が読めない

★ 語源を理解しながら、 単語を覚えてみよう。

★ 自転車

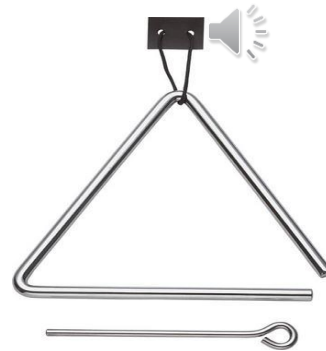


= bi (2) + cycle (輪)

質問7：小さい頃に乘った三輪車は英語でなんと言うでしょうか。

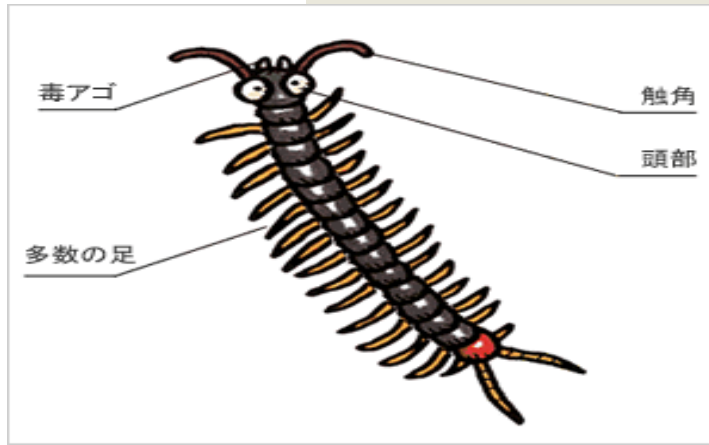


☆ ヒント：この楽器は英語で何と言うでしょう。



トライアングル = tri (三) + angle (角)

質問8：下の絵の虫の名前を英語で何と知っているか。



☆日本語では「百足（ムカデ）」といます。英語も同じ発想です。



ヒント① $1 \text{ m} = 100 \text{ cm}$
cm = centi (100分の1) + meter(メーター)

ヒント② 足 = ped



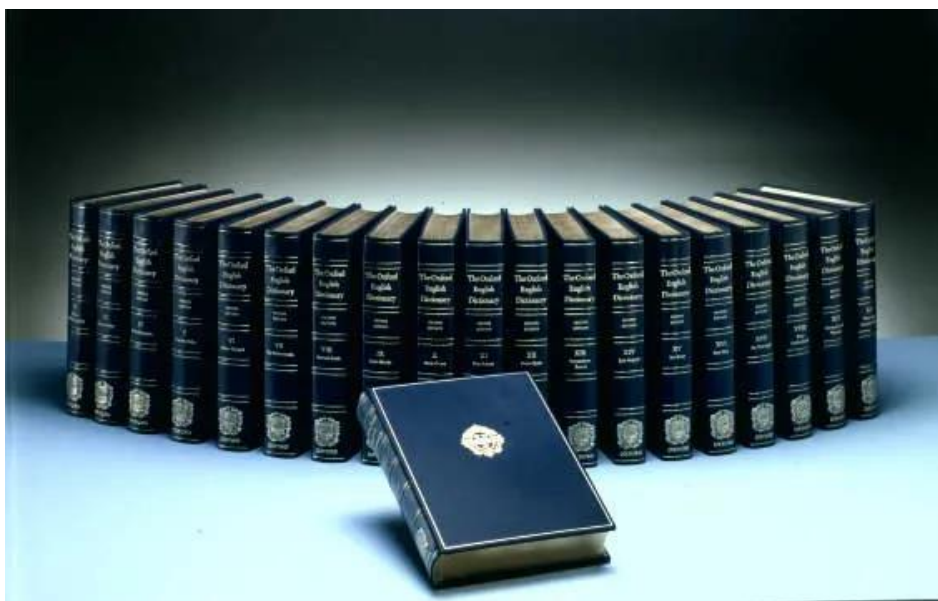
辞書の作成

- ▶ 昔の辞書の作り方は人海作戦であった。辞書を作る。
- ▶ 『舟を編む』という映画は、松田龍平 & 宮崎あおいの主演で映画化したヒューマンドラマ。15年の歳月をかけて、24万語収録の一冊の辞書を作り上げていく主人公と、老若男女揃った個性豊かな辞書編集部仲間たちの姿を丁寧に描き出している。(Wikipedia)
- ▶ 現代はコーパスを利用している。



Oxford English Dictionary (OED)

- ▶ 本体20巻 (累計21,730頁) と補遺3巻 (累計1,022頁) から構成され、主要な見出し語数は291,500である。
- ▶ 単に単語の現在の用法を示すのではなく、むしろそれらの歴史的発展を示すことにより、単語を説明している。それゆえに、すでに使われなくなった単語の意味も含めて、単語の意味の使われ始めた順に定義を示している。



コーパス研究

- ▶ コーパスによって言語研究が画期的に変わった。
- ▶ 辞書などは最近はコーパスの成果を活用している。



- ▶ I am surprised at his success.
- ▶ by
- ▶ with
- ▶ He is walking on the street.
- ▶ in
- ▶ at



課題

- ▶ 辞書はどのように作られるか調べてみよう。
- ▶ コーパスでどの様に辞書を作るか調べてみよう。

